



令和3年 岡山県海域の船舶海難及び 人身海難の発生状況（速報）について

船舶海難51隻（令和2年から13隻減少）

- 船種別では、プレジャーボート25隻、貨物船9隻、漁船7隻、タンカー3隻、遊漁船3隻、その他3隻、旅客船1隻
- 最多は、プレジャーボートの25隻。（全体の約5割）
- 海難種類別では、衝突が17隻、乗揚10隻、機関故障9隻、浸水4隻、転覆1隻、推進機障害1隻、無人漂流1隻、その他8隻
- 最多は、衝突の17隻。（全体の約3割）

人身海難56人（令和2年から23人増加）

※死者・行方不明者25人（令和2年から14人増加）

- 船舶海難によらない乗船中の人身海難は22人
- マリンレジャーによる事故が6人
- マリンレジャー以外の海浜事故（岸壁歩行中の海中転落や自殺等）が26人
- マリンレジャー以外の海浜事故については、16名増加、去年の2.5倍。

注意1：数字は、水島・玉野海上保安部管内の集計であり、岡山県の行政海域とは一部異なります。

注意2：発生数は速報値であり、事故調査結果等により増減する場合があります。

1 船舶海難の状況

- プレジャーボート等小型船の事故
 - 航行中に浅瀬や漁具に乗揚。
 - 水上オートバイ同士の衝突。
 - 航行中に船舶や灯浮標等の物件に衝突。
 - 航行中にインペラの欠損・電気システムのトラブルにより航行不能。
- 貨物船やタンカーの事故
 - 航行中に浅瀬に乗揚。
 - 航行中に船舶や灯浮標等の物件に衝突。

2 主な人身海難の状況

- マリンレジャー中の事故
 - SUP（スタンド アップ パドルボード）中に海中転落。
 - 水上バイク操船中、衝突した衝撃により海中転落し負傷。
 - 浮き具を使用し遊んでいたところ、風潮流に流され帰還不能。
 - 釣り中、岸壁から海中転落。
- マリンレジャー以外の事故（岸壁歩行中の海中転落や自殺等）
 - アクセルとブレーキの踏み間違いによる、車両での海中転落。
 - 遊漁船に乗船し漁場を移動中、他船の航走波による船体動揺により転倒し負傷。
- 船舶海難によらない乗船中の人身事故
 - 高所作業中に甲板上に転落し負傷。
 - 旅客船や貨物船等の船内において病気が発症。

3 その他

船舶海難が前年と比べて 13 隻減少しているが、半数はプレジャーボートによる海難であり、引き続き、事故の傾向を踏まえた安全対策を講じていきます。

特にプレジャーボート等の小型船にあっては、船体機器整備不良（定期消耗品の未交換など）に起因しての事故が依然多く発生しているため、定期的なメンテナンスのほか、機関メーカー指定の業者による整備等について、強かに指導していきます。

○主な船舶海難事例

船種(全長)	海難種類 (海難原因) 発生日時場所	船舶海難の概要
ゴムボート(全長1.7メートル、ミニボート)	帰還不能 (電動船外機のバッテリー過放電) ①令和3年11月3日 午後4時頃 倉敷市児島大浜沖 ②令和3年11月18日 午後3時頃 玉野市宇野港沖	①倉敷市小島漁協付近の公園砂浜から出港し、釣りをし、帰港するためエンジンを起動しようとしたところ、船外機のバッテリー過放電により自力航行が不可能であったことから帰還不能となったもの。 ②同じ船にて、後日同様の海難を発生させたもの。
舢舨(全長37メートル)	単独衝突(操船不適切) 令和3年11月8日 午後6時30分頃 岡山水道	曳船(19t)は、坂出から大阪向け舢舨2隻(共に空船)を曳航し航行していたものであるが、荒天避泊のため、岡山港向け岡山水道を航行中、操船を誤り2隻目の舢舨が「ツブシ礁灯標」に衝突したものである。 曳船の乗員2名、各舢舨の乗員各1名に怪我等なし。
水上オートバイ2隻 (2隻共に約3m)	衝突(操船不適切) 令和3年8月29日 午後4時頃 倉敷市玉島黒崎 沙美海水浴場沖	左記海域において、遊走中の水上オートバイとトーイングチューブを曳いて遊走していた水上オートバイが衝突し、全員海に投げ出され、操船者1名及び同乗者1名が負傷したものの。

○主な人身海難事例

発生日時場所	人身海難の概要
令和3年7月24日 午後0時頃 玉野市渋川海水浴場	事故者2名(共に15歳、男性)は不開設の渋川海水浴場においてフラミンゴ型の浮き具に乗って遊泳していたところ、風潮流の影響を受け、沖に流され帰還不能となり、付近にいた水上バイクに浮き具とともに救助されたものである。事故者2名に怪我等なし。
令和3年8月30日 午前11時頃 高室海岸沖合海域	事故者(45歳・男性)は、SUPに乗り魚釣りをしていたところ、波による動揺で海中転落し漂流していたが、付近航行中のタンカー「第十八日の出丸」が事故者を発見し、船内に引き上げ救助されたものである。